

岐宿っ子の獅子が舞う！



1月2日(火)朝8時。岐宿町柔道部の小中学生・高校生のOB・指導者・保護者の方々が岐宿地区公民館に集まり、新春恒例の「獅子舞」の準備をしていました。その後、厳立神社に参拝し、舞が奉納されます。神社の澄み切った空気の中で、獅子が舞い、邪気が払われたような清々しい気持ちになりました。すぐに二つのグループに分かれて、各家を回ります。2日間で100軒以上の家を回るとお聞きし、大変驚きました。

平成13年に発行された岐宿町郷土史には、獅子舞について、「この一行は獅子頭・天狗面・すそ持ち・太鼓・笛奏者・交代要員数名で構成され、主として青年団員がこれに当たった。おさい銭は青年団の重要な収入源ともなるので、彼らは技術の習得に熱を入れ、演技を競った。しかし、近年、若者が少なくなるとこの活気に満ちたにぎやかな行事も保存伝承に苦労があり、中・高学生の力を借りてどうにか続けているところもある。」と書かれていました。

事の詳細については、わかりませんが、担い手がいないことに危機感を持った岐宿町柔道部の小倉鹿太郎先生がこれを引き継ぎ、柔道部の保護者が協力し、「獅子舞」の継承につながっているのでしょう。このような地域の伝統を大切に作る大人の姿をたくさん子ども達に見せたいと思いました。

人口減少という大きな課題が押し寄せる中で五島各地の伝統芸能が担い手不足で実施できないというニュースを聞くことがあります。長年、地元の人々の間で受け継がれてきた文化が廃れていくことは悲しいことです。お正月に活躍したこの子ども達が、伝統芸能だけではなく将来の岐宿を担ってくださるといいなという思いで帰路につきました。



第3学期始業式 ～校長式辞～

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

一月一日に発生した能登半島地震では、多くの方が犠牲となり、今もなお、厳しい現実さらされている人々がいます。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると共に、避難を余儀なくされている方々に、支援が行き届くことを願うばかりです。そんな中、避難所(学校)で過ごしている学生が、お年寄りの心身の健康を気遣い、ラジオ体操やじゃんけん大会を開いたり、壁新聞を作成したりというニュースの映像が流れました。長崎では、高校生が街頭に立ち、募金活動をしているという記事を新聞で見ました。心がほっこりとなりました。私たちにできることは何かないでしょうか？警察、消防、自衛隊、ボランティア等の方々、今も雪が降りしきる中、安否不明者の捜索や家屋の下敷きになった方々の救出に全力を注いでおられると思います。道路や電気、水道といったインフラの復旧にも全力をあげて取り組んでいることでしょうか。非常時に自分の役割を果たそうと粛々と動くことができる人がいる。自分よりももっと厳しい立場にいる人のことを気遣い、自制した行動をとることができる人がいる。被害に遭っているのに、避難所で周囲の人と協力しながら皆のために率先して活動する人がいる。こういうものを目にするとき、日本はやっぱり素敵な国だなと思うのです。君たちにもニュースや新聞を見て、こういうことを感じられるようになってほしいと思います。これも立派な学びです。勉強です。

いよいよ三学期が始まります。一年の締めくくりの学期です。特に、三年生にとっては、義務教育最後の学期であり、進路を決定する大切な学期となります。岐宿中学校の合言葉は「理想の自分に向かって一歩前」。なりたい自分になれるように、特に三学期は「学び」に力を入れていきましょう。

- ① 各教科の授業で知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を高めましょう。(通知表の成績を上げるぞ！)
- ② 友達や先生、保護者、地域の人との関わりを通して、人間力を高めましょう。(通知表の生活の記録の欄に○がつくようにするぞ！)
- ③ 新聞やニュース、多くの本に触れることで、視野を広げ、「考える力」「感じる力」を高めましょう。

君たちの活躍と成長を大いに期待しています。

